

金曜 3 限 !! ドイツ語中級

■ < 目的 >

高度な文法事項を習得し、読解力や言語運用能力の養成を目指す。

■ < 学習目標 >

すでに学習した初級文法の知識を定着させ、実際の場面に応じた日常会話ができる。読む、聞く、話す、書くの四技能すべてを練習する。

■ < 授業計画 >

、 セメスターで学習した初級文法の知識を確認しつつ、ドイツ語のかなり難しいテキストを読んでいく。発音や語彙、会話、聞き取り練習を行う。学習を通じて、ドイツの生活や文化に関する理解を深める。第 1 回 導入第 2 回 教科書の順番にしたがって進んでいくが、受講生の理解度によって進度は変更するため、これ以降は授業で伝えていく。大体 1 日に 1 課弱進む予定であるため、予習は欠かせない。とはいえ、できるだけ丁寧に説明するため、教科書をすべて読まなくてもよいと思っている。とはいえ、教科書の内容は、ドイツの環境問題に関するものなので、どのような意識でドイツ人が環境のことを考えているかが伺える文章である。その内容は、環境問題全般（1 課）生態系（2 課）水（3 課）ゴミ（4 課）森（5 課）地球温暖化（6 課）車（7 課）原子力（8 課）環境教育（9 課）環境問題への対策（10 課）などである。

第一回 4 月 14 日

今日は、参加者がよくわからなかったもので、どのような理由でこの授業を採ろうとしたのか、尋ねた。その結果、第一志望でこの授業をとった人はほとんどおらず、履修をし忘れたか、第二希望、第三希望の人たちであることが判明した。それでも、教科書を読んでいった。そして、Der Mensch などが、「その人間」ではなく「人間」の総称であることをまなんだ。これから、このようなやや高度な文法について説明していく予定。来週の 4 月 21 日は、学内の用事によって休講、次回は 4 月 28 日になる。

第二回 4 月 28 日

この日は、はじめて議論も行った。さすがにいろいろな意見が出て面白かったが、前半はドイツ語の文法についての確認作業をして、後半は議論にあてるような形になった。議論をまとめるのは、なかなか大変ではあるが、今回は、地球汚染に関して、自分たちが社会人になったときに、なんとかうまく調整することができるよう研究を役立てたい、という意見があって、頼もしく感じた。

第三回 5 月 12 日

5 月 5 日は、子供の日であったため、休講。久しぶりの授業で、ペースはつかめていない感じがした。この授業は、予習 30 分は必要。また、議論する上でもきちんと読んで、考えることが必須。文法的には、形容詞について説明した。また、議論についても少し話した。リーディング大学院

の人たちに期待されていることは、当然、皆さんにも期待されるのでその能力を書いておこう。高度な専門的知識・研究能力／高い国際性／専門以外の分野の幅広い知識／物事を俯瞰し本質を見抜く力／自ら課題を発見し解決に挑む力／独創的な能力／チームのマネージメント力／企画立案、関係者との調整、統率する能力／他者と協働する力／ディスカッション能力／プレゼンテーション能力／語学力、ということで、語学力も必要だが、それは日本語でも同じ。日本語でできない議論が英語やドイツ語でできるわけがない。さらに言うなら、判断力だろうか。何も判断しない人にはならないでほしいと思う。

第四回 5月19日

今日は、水についての問題であった。それゆえ、水を増やすために、海水を飲めるようにしたらよい、という海水を増やす方向の議論がなされた。しかし、日本のことばかり考えず、砂漠の地域のことも考えると、パイプラインを作って、水をおくることが必要、というような国際的な視野にたった議論もあった。ドイツ語は、案外長くなってきたので、手を抜くと、取り返しのつかないことになりそうだ。

第五回 5月26日

今日は、ごみの問題について話した。いろいろな意見がでたが、社会の在り方、意識、そして政策などとも関係することが確認できたと思う。前回も書いたことの繰り返しになるが、だんだんドイツ語も難しくなるので、まったく予習をしないとあとで大変になると思う。

第六回 6月2日

トランプがパリ協定から離脱する方針を打った日だったので、ちょっと議論がおもしろかった。今日は、森をまもろう、という話であったが、その議論が、政策として、中国やアメリカに二酸化炭素の排出を抑えるように呼びかけ、それがうまくいったら関税を引き下げるなどの政策が必要である、とか、単に儲けたいだけなのだから、森林伐採をやめることがだれにとっても儲けになるかを明確にするという倫理的な問題とか、技術を高めて、森に代わる素材をつくる、あるいは砂漠でも育つ植物を研究する、などといった研究系のことが話し合われて面白かった。次回は、文法の基礎の話をする。二格と三格、副文（従属の接続詞）のことなど。

第七回 6月9日

今日は、地球の温暖化について話した。今日の話もパリ協定と関連することであったが、やや議論は難しいようだった。とはいえ、Relevanzについて話したら、案外多くの人に関心を持ってくれたようだった。

第八回 6月16日

今日は、車についての話であった。身近なものであるもので、議論はある程度はできたようだが、それでも、あまりにも現実的なものが多かった。もう少し、現実からかけ離れたものについても議論してよいと思った。

第九回 6月23日

今日は、原発に関するテキストであった。数年前、福島事故後に読んだ時には、学生さんのほとんどが原発反対と言っていたと記憶するが、今年の学生さんは、大体半々くらいであった。ああ、政府の主張というのは、非常に大きな操作の機能をもつものだとつくづく思った。政治が経済（金持ち）のためにあり、そのためにであれば原発も原爆もやむを得ない、という論理はいいいつになったら、やめられるのだろう、と思った。

第十回 6月30日

今日は、子供たちに対する教育について、アンケートの結果を通して学んだ。ドイツの子供たちは、環境破壊に大きな不安を持っているというので、今の学生さんがどんなことに不安を持っているかきいたら、単位のことを心配だと言っていた。おそらく、この授業をきちんと受けていた人は、大丈夫だろうが、20点や30点だと困る、ということは伝えた。